

展覧会 「大マンガラクタ館」シリーズ



会場 京都国際マンガミュージアム 2階
館長室前

(1) 第3回「戦前の童画雑誌『カシコイ』の世界」

2018年12月1日(土)～2019年3月31日(日)

(2) 第4回「〈大人のマンガ〉は難しくて豪華!?

明治の高級マンガ雑誌」

2019年5月17日(金)～8月2日(金)

(3) 第5回「少女マンガのルーツか?! パリ20

世紀初頭の風俗マンガ雑誌」

2019年8月3日(土)～11月21日(木)

(4) 第6回「「趣味の王さま」三田平凡寺、令和

に復活す!？」

2019年12月22日(日)～2020年3月31日(火)

[予定]

担当研究員 伊藤遊

実施概要

「大マンガラクタ館」は、「世の中に忘れられたマンガの先祖たちを掘りおこし、現代マンガのルーツをさぐる」ということを目的に、京都国際マンガミュージアム・荒俣宏館長が企画し、プロデュースする小展示シリーズである。

当初は、同館／IMRC所蔵の閉架資料を紹介していたが（第1回の赤本、第2回の怪奇もの貸本マンガ、第4回の近代諷刺マンガ雑誌）、今年は、「掘りおこ」す場所が広がっていった。第3回では、初山滋（童画家）、新美南吉（児童文学者）ら豪華執筆陣を揃えていたにもかかわらず、忘れられていた戦前の学年誌『カシコイ』を紹介したが、そこで展示された同誌掲載の初山らによる童画の原画群は、『カシコイ』編集人の親族が保管していたものである。それらは、忘れられた歴史の「発見」として、新聞などでも大きく紹介された。

第6回も同様のケース。マンガ研究者の夏目房之介氏らが所蔵する、祖父である三田平凡寺（1876～1960）の創作物や日記、収集した「ガ

Exhibitions 2019

ラクタ」や蔵書などに荒俣館長が関心を持ち、マンガミュージアムで預かったことに端を発する展示である。明治の諷刺マンガ誌『團圓珍聞』に関係した美術家（画家・小林清親ら）、文芸者（狂詩作家・真木痴囊ら）に師事した趣味人でもあった平凡寺の遺品には、師匠たちに関連する資料も多く含まれ、正に「世の中に忘れられたマンガの先祖」に関わる一級の歴史資料の「掘りおこし」となった。

「大マンガラクタ館」シリーズは、まだ世の中に紹介されていない資料を、とにかくその存在だけでも知らせようという“予告編”的役割も意識されている。実際、第6回展は、2020年4月から開催予定の企画展「荒俣宏の大大マンガラクタ館」でも発展的に取り上げられることになっている。（文責：伊藤遊）

